

# 地方自治体における CM（コンストラクション・マネジメント）の実施例（その1）

|              |     |     |    |
|--------------|-----|-----|----|
| 応用地質株式会社技術本部 | 正会員 | 竹林  | 亜夫 |
| 応用地質株式会社関西支社 | 正会員 | 木村  | 正樹 |
| 同上           | 正会員 | ○鳥居 | 敏  |
| 兵庫県豊岡市日高総合支所 | 非会員 | 谷   | 敏明 |
| 兵庫県養父市都市整備部  | 非会員 | 安田  | 徹  |

## 1. まえがき

知見八鹿線道路整備事業では、我が国の市町村における土木事業では初めての試みとなる CM 方式を採用している<sup>1)2)</sup>。本報告では CM 方式開始後トンネル工事発注までの実績についてのべる。

## 2. 事業概要

- (1) 事業名 知見八鹿線道路整備事業
- (2) 発注者 兵庫県豊岡市・養父市
- (3) 事業位置 豊岡市日高町知見～養父市八鹿町馬瀬
- (4) CM 期間 H15.12～H19.3（40 ヶ月間）
- (5) 事業概要 全延長 L=2,772m  
 うちトンネル部 L=1,563m  
 知見側明かり部 L=593m  
 八鹿側明かり部 L=616m



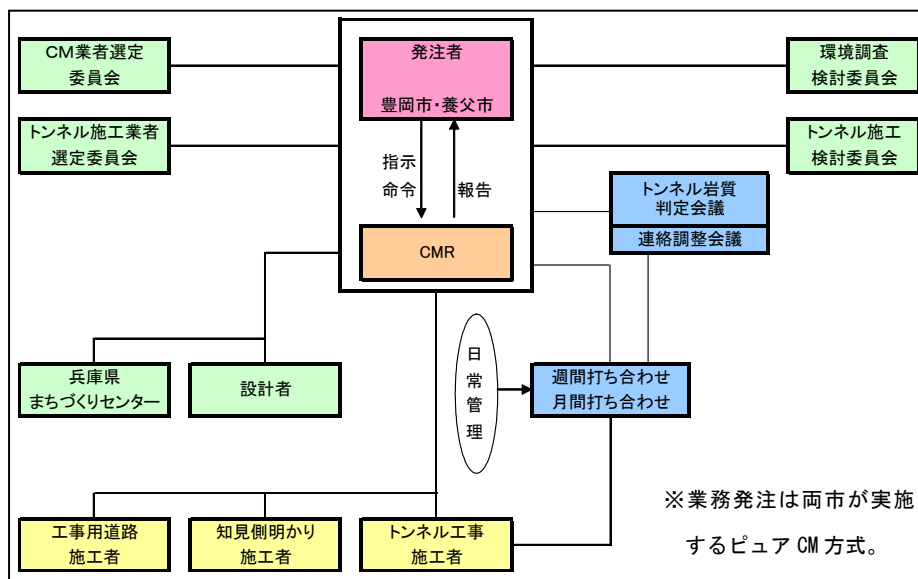
図—1 現地案内図

## 3. 実施内容

CM を含めた現在の事業実施体制を図—2 に示す。以下にこれまでの実施内容をのべる。

### 3-1. 発注方式の選定

本事業の中心となるトンネル工事発注について、設計施工一括発注とするか分離発注とするかを検討した。その結果、概略設計における事業費算定について不確定要素が多く含まれているため、設計施工一括発注とした場合には事業費の把握が困難になるとの検討結果を得た。事業費の把握が正確にできていない場合には施工業者の提案を適切に評価できないことから、今回は設計施工分離発注を採用した。



図—2 CM 方式実施体制図

キーワード 地方自治体、CM方式、発注方式、情報公開

連絡先 〒669-5391 豊岡市日高町祢布 920 豊岡市役所日高総合支所地域整備課 TEL 0796-42-1112

### 3-2. 詳細設計業者の選定

詳細設計業者選定にあたっては、本事業が持つ様々な問題点を十分に理解し、これらを解決する高い能力を有することが求められた。また、事業全体工期が短いことから、業者選定を含めた詳細設計の実施期間を極力短縮する必要があった。これらの条件をもとに検討の結果、以下の方針で業者選定をすることとした。

- ・ 指名型プロポーザル方式により業者を選定する。
- ・ 指名業者はCMR選定時に応募して1次審査を通過した業者とする（事業の認知度が高いと判断）。

これにより業者選定のための時間短縮と情報の公平性、質の確保ができた。

選定にあたっては日高町助役を委員長とする選定委員会を組織した。選定結果および選定経緯については業者に対して通知するとともに、ホームページ上においても公開して情報開示に努めた。

### 3-3. 工事発注方式

本事業では図-3のように工事発注区分を3分割（八鹿側進入路工事、トンネル本体+八鹿側明かり工事、知見側明かり工事）して対応した（トンネル掘削は後述するように環境面の配慮から八鹿側からの片押し施工）。このうち、八鹿側進入路工事と知見側明かり工事については、

- ・ 工事金額規模がトンネル工区と比較して小さい。
- ・ 工種が土工中心であり、特殊作業は必要としない。
- ・ 本事業に対する地元の期待が大きい。

などの理由から、地元業者に対する指名競争入札を採用することとした。また、八鹿側進入路工事は全体工程の上でクリティカルとなるトンネル工事を早期に着手するために先行して発注した。

トンネル工区の発注方式は総合評価方式が適当であると判断した。また、金額が大きいため一般競争入札となった。このことから本工事では「総合評価一般競争入札」を採用した。なお、発注時点での両市町（日高町および養父市）は国または都道府県・政令指定都市ではないことから、国際入札の必要はなかった。また、詳細設計に伴うトンネル工事費の積算は兵庫県まちづくり技術センターに発注した。

### 3-4. 環境対策

事業実施箇所周辺において絶滅危惧種であるクマタカの存在が確認されている。この保護対策として本事業では環境調査検討委員会を立ち上げ、クマタカを含む地域の自然環境に配慮しつつ事業を行っていた。CMは既に構築されていたこの枠組みの中で環境対策に取り組んでいる。

## 4. まとめ

これらの業者選定結果や経過、応募のための書式などは全て両市ホームページに随時掲載している。また、事業進捗状況は「かわら版」という形で発信し、情報公開の徹底を図っている。今後もこのような取り組みを徹底して事業の透明性を確保したいと考えている。

#### <参考文献>

1),2)三木, 松沢, 谷, 安田: 地方自治体におけるCM(コンストラクション・マネジメント)の導入事例 (その1, その2), 土木学会第59回年次学術講演会, 2004



図-3 工区分割図